



題字 大西 一史 市長

# 第38回 熊本市PTA研究大会

令和6年11月2日(土) 市民会館シアーズホーム夢ホール・大ホール

「かけはし」子ども・保護者・学校・地域…そして未来へ

今年の研究大会は、昨年9月に熊本市で開催された「第79回指定都市PTA情報交換会熊本市大会」での、全国の政令指定都市PTA関係者との情報・意見交換の成果を共有する意義を込め、その報告も兼ねています。

開会行事では、主催者の熊本市PTA協議会濱石浩二会長が挨拶、続いて、ご来賓を代表して遠藤洋路熊本市教育長よりご祝辞をいただきました。

次に分科会報告では、指定都市大会で開催された4つの分科会(組織・運営、研修活動、地域連携、広報・情報活動)の報告を担当者から行い、各分科会で議論された内容を共有しました。

その後の全体講演では、出水南中学校 田中慎一朗校長より「SOSのカタチ」と題し講演をいただきました。田中校長




**熊本市PTA協議会**  
 会長 濱石 浩二  
 編集責任者 中釜 裕二  
 〒861-8074 熊本市北区清水本町16-10  
 熊本市健康センター清水分室新館2F  
 TEL(288)3750 FAX(288)3754  
<http://kumamotocity-pta.net>  
[info@kumamotocity-pta.net](mailto:info@kumamotocity-pta.net)  
 印刷：(株)キャップ TEL(362)3333

は、子どもたちのSOSのサインを見つけることの難しさ、SOSを受け止めることの大切さについて、ご自身の経験を踏まえながら熱く語られました。また、子どもたちが安心してSOSを発信できる環境づくりの必要性を強調されました。

PTAには、そのような環境づくりのために、保護者に情報を発信し、積極的に関わっていくような機運を作っていく必要があるのではないのでしょうか。

今回の大会を通じて、PTAの役割の重要性を改めて認識しました。子どもたちの未来のために、保護者、学校、地域が一体となって、より良い教育環境を築いていくこそが、私たちPTAの使命だと強く感じました。

(教養委員長 伊藤和仁)

## 1分科会報告

【第1分科会】  
組織・運営「PTAのあり方〜今求められるPTA組織とは〜」

PTAの必要性が問われている現在、PTAの存在意義を改めて見つめ直すこ

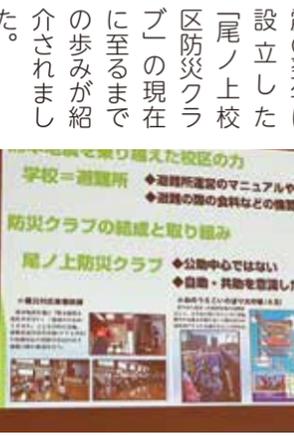


とがとて重要となつていきます。私たち会員一人ひとりが、PTAとして期待されている役割の大きさを認識することが、時代に合ったPTA組織を作るうえで大切なことだと考えます。第1分科会では必由館高校 上野直直校長と熊本大学法学部 岡田行雄教授の講演を通じて、組織のリーダーとしての役割やPTAの危機管理について学び、皆さんと情報共有しながら「PTAとは…」について再度考える機会となりました。

## 2分科会

【第2分科会】  
研修活動「防災」

熊本は、2016年4月に熊本地震を経験し、学校・PTA・地域同士の繋がりの中で、地域全体の防災意識が高まりました。第2分科会では、そうした防災意識から熊本地震の翌年に設立した「尾ノ上校区防災クラブ」の現在の歩みが紹介されました。



同じくくまもとクロスロード研究会は熊本地震を機に立ち上がった団体で、名前の由来にもなっているクロスロードは、カードゲーム形式で防災をイメージすることが出来ます。防災行動をとることを目的としており、災害時のみならず、平時でもよりよく生きるための道具である！と考えられています。

この機会に、地域全体で防災に取り組む重要性を理解し学ぶことが出来ました。

## 3分科会

【第3分科会】  
研修活動「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進」



地域連携は、学校や家庭、地域が協力して子どもたちの教育環境をよりよいものにし、地域社会とのつながりを深めることを目指すものです。現代社会では少子高齢化や核家族化、情報化などが進んでおり、地域社会における問題や課題も多様化しています。課題を解決するには、様々な団体の連携が求められています。

第3分科会では熊本市教育委員会 地域教育推進課 中屋恵里指導主事による講演、ワークショップ、グループトークを通じて、今後期待される効果や実践事例などの理解を深め、今の課題や現状を共有しました。今後の各単Pの取り組みの参考になる分科会でした。

## 4分科会

【第4分科会】  
広報・情報活動「ICTの活用」

コロナ禍で急激に進んだGIGAスクール構想。児童生徒一人一台端末の環境が整備され、授業や宿題など学校教育での活動は大きく変化しました。その一方で、PTAでのリスクリリングはどれくらい進んだのでしょうか？



第4分科会では、講師に秋津小 前田浩志教頭をお招きし、「ICTを使いこなすとはどういうことか」をテーマに助言をいただきました。その後グループ

ワークでの動画作成体験等を通じ、共に考え、知識基盤社会を生き抜くヒントを探りました。

時代に合った教育を進めていくことが大切だと考えさせられました。

(田原小学校PTA 副会長 清田 光則)  
(山本小学校PTA 副会長 三嶋 恵介)

## 2全体講演

### 演題「SOSのカタチ」

講師 出水南中学校 田中 慎一朗校長

全体講演では、出水南中学校 田中慎一朗校長より、テーマを「SOSのカタチ」とし、講演をいただきました。現在の子どもたちの問題行動は、以前の暴力や飲酒窃盗、集団暴走行為などは違い、自傷行為や心身症、不登校などが増加し内向化しています。抱えるつらさを外に発散できずに孤立し苦しんでいる状況にあり、表面化しない分、事態は深刻化しています。

子どもたちからの「SOS」援助希望のカタチも、社会環境の変化と共に大きく変わってきました。子どもたちにとって一番身近にいる私たち大人が、取り巻く状況を理解し、頼れる居場所を社会の中に確保していくことが求められています。子どもたちからの「SOS」をどう受け止め向き合うか、熊本市にある中学校のデジタル技術を用いた取り組みを事例に参加者と緒に考えました。

全体講演を聴き、子どもたちが発する様々な「SOS」のサインに気づき、行動や態度の変化、言葉遣いなどに現れる微細なサインを見逃さないことが重要だと考えさせられました。

これらのサインを早期に察知するためには、日頃から子どもたちとの信頼関係を築き、オープンなコミュニケーションを心がけることが不可欠です。

また、子どもたちが安心して悩みを打ち明けられる環境を整えることも重要だと感じました。

周囲の大人が一丸となって支援していく姿勢が、子どもたちの健全な成長と安心感につながると思えさせられる講演でした。

(三削小学校PTA 副会長 宮本 崇大)

## 第16回くまもと教育・文化フォーラムに参加して

令和6年11月9日(土)

くまもと県民交流館パレア  
熊本市退職校長会主催  
(市PTA協議会・市教委・小中学校長会 共催)

### 『生きがいを感じる』

### 喜びを感じる

オープニングは、今年度九州大会に出場した、託麻中学校合唱部26名の素晴らしい歌声で始まりました。生徒の美しい歌声に、会場の皆さんはとても感動されていました。次に、大江小学校の児童活動報告として、オリジナルマスコットや地域ピカピカ大作戦など自分たちで細かいところまで考えて取り組んでいると発表しました。堂々とした素晴らしい発表でした。続いて画図小学校PTA会長による取り組みの紹介は、とてもわかりやすく参考になるものが多くありました。そして、熊本市退職校長会「四季を歌う会」では皆さんの演奏、歌声に癒されたひとときでした。



講演会は、肥後狂句連盟 常任世話人の永松和典(好魚)氏による「案しもう肥後狂句」という演題でお話いただきました。

肥後狂句とは、笠となるお題の言葉に付け句、七・五の12音で表現する句のことです。最後に先生のとっておきの句をひとつご紹介いたします。

遠かなア はこの嫁の婿でたい  
演題にもある通り、とても楽しい時間を皆さんと過ごすことができました。  
(芳野中学校PTA 副会長 内田 裕子)

第79回指定都市PTA情報交換会 熊本市大会

9/12(木)・13(金)

かけはし〜子ども・保護者・学校・地域…そして未来へ〜

9月12日(木)・13日(金)、全国指定都市PTA16都市の代表が一堂に会して、「第79回指定都市PTA情報交換会熊本市大会」が、熊本市で華々しく開催されました。

今回のテーマは「かけはし〜子ども・保護者・学校・地域…そして未来へ〜」。お互いがつながることの大切さを再認識し、子どもたちの今と未来への「かけはし」となるような活動を、皆さんと一緒に考える時間となりました。

第1日目は4つの分科会が開催されました。

第1分科会のテーマは「PTAのあり方」。前半は、必由館高等学校の上野正直校長より、「リーダーとしての役割について」講演いただきました。リーダーとしてメンバーへビジョンを共有し、「出あう」「つながる」「ともに創る」を柱に、PTAでやりたいことをカタチに、そして持続可能なPTAを構築するためには、well-beingの推進が必須であることのお話いただきました。



後半は熊本市PTA本部で実施されたPTA裁判を振り返り、危機管理の方法と改めてPTA活動の在り方を考える貴重な時間でした。

第2分科会のテーマは「防災」。前半は歴代の尾ノ上小PTA会長からなる、地域に根付いた防災クラブの活動をテーマに、地域連携の大切さを再認識した活動

を発表していただきました。自分たちの手で守る地域づくりの力を入れ、こいのぼり大作戦や錦ヶ丘公園のイルミネーション点灯式など、地域に根付く活動を実施。熊本地震の経験から、防災意識を高めるためにも、地域連携の大切さを再認識する活動発表となりました。

後半は、熊本クロスロード研究会による、クロスロードゲームにより、災害発生時の対応について実践形式で学びました。災害発生時の対応には必ずしも正解はなく、自分の身に寄せて考えると同時に、他者のさまざまな考えを知ることができ、災害が起こる前から考えておくことの重要性を教えてくださいました。

第3分科会のテーマは「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進」。熊本市教育委員会教育推進課 中屋恵里指導主事に講演いただいた後、ワークショップを行いました。平成29年の教育基本法改正によりコミュニティ・スクールの設置が努力義務となったことで、導入している学校が全国で52.3%まで増えてきました。政令指定都市だけをみると後発となっている熊本市ですが、その分、独自の取り組みを目指し、令和6年度より4校にてモデル事業をスタートしました。司会進行を生徒が担い、地域の代表と生徒が対等な立場で議論を行い、町内一斉清掃について意見を交わす学校熟議や、eスポーツ「太鼓の達人」を通じた地域交流として、熊本県立大学のサークルの協力のもと、小学生と老人会が楽しく活動する事業は、まさに地域と学校とのつながりを



感じさせるものでした。

第4分科会のテーマは「ICT活用」。秋津小学校前田浩志教頭よりICT活用のための視点や教員の立場からの「広報情報活動」を教えてくださいました。その後、PTA活動におけるICT活用の現状と課題について討議し、各協議会の取り組み状況や情報提供を行いました。動画編集アプリを使った「1分間の動画作成」を通して、広報意識の向上と活動の構成力を高めることで、実活動においても有益になるという認識の共有ができました。

2日目の記念講演は、熊本市立出水南中学校の田中慎一校長による「SOSのカタチ」。子どもたちからのSOSをどう受け止めるか、実際に中学校で行ったデジタル技術を用いた取り組み事例に、SOSのカタチを学びました。SNS依存による子どもたち自身が巻き込まれる多くの事例が目立ちますが、子どもたちの心の痛み・寂しさを埋めている先、問題行動の依存先を無くすのではなく、適切な依存先を増やして、相対的に減らしていくことが重要であるという見解でした。また「居場所」という名の箱を用意するだけでなく、質にこだわった居場所づくりが、子どもたちを被害から守ることに繋がるといってお話しは、誰もが納得し考えさせられるものでした。



2日間を通して、全国の指定都市PTAの仲間と意見を交わした今回の大会は、PTAとして子どもたちに思いを巡らすための「未来へのかけはし」となった貴重な時間となりました。(東町中学校PTA 会長 藤枝 幸花)

第69回日本PTA九州ブロック研究大会 長崎大会

10/26(土)・27(日)

大会スローガン 学びを実績へ! 集まるうで 語り会おうで やってみようで

全体会・分科会

10月26日(土)・27日(日)、第69回日本PTA九州ブロック研究大会長崎大会が、出島メッセ長崎にて開催されました。本大会は、九州各県のPTA関係者が一堂に会し、PTA活動の発展と子どもたちの健全育成を目指すため、参加者は多様なテーマについて議論や情報共有を行いました。

1日目は6つの分科会(組織・運営「家庭教育」「人権教育」「教育環境」「広報・地域連携」「今日的課題」)が行われ、それぞれ研究発表、質疑応答、グループ討議があり日常のPTA活動に役立つ情報を共有しました。

第2分科会では、熊本市PTA協議会副会長で熊本市画図小学校PTAの友村会長から、地域と共に継続して連携するPTA活動の事例発表、第4分科会では熊本県PTA連合会より水俣市立水俣第二中学校PTAの田中会長から大人が子どもたちの夢を支え、子どもたちの規範となるPTA活動について発表が聴き入っていました。



2日目の全体会では、歓迎アトラクションの後、多方面で活躍される放送作家の野々村友紀子さんより「強く生きるためのヒント」野々村友紀子が伝えたい人生で大事なこと」と題した記念講演があり、子どもとの関わり方を考える大変貴重な有意義な時間となりました。

2日間を通して、参加者は自身の知識やスキルを向上させ、地域の教育環境の改善に寄与することが期待されます。



このような広域的な交流は、各地域のPTA活動の活性化や課題解決に大いに役立っています。

今回の大会では、新しい文化の起点であり恒久の平和を尊ぶ都市である長崎市にて集い、「学びを実践へ」という大会スローガンの通り、長崎の地域の文化や特色を学び、それぞれの活動を紹介し合い、課題を共有し、互いに学び合う場となりました。参加者一人ひとりがPTAの意義を再確認し、この機会を通じて得た知識や経験を地元へ持ち帰り、さらに工夫した活動が実践できることでしょうか。熊本より参加された皆さん、大変お疲れ様でした!

(託麻東小学校PTA 副会長 後藤 梨射)



研究領域	討議課題	討議の視点
第1分科会「組織・運営」	時代の変化に応じた持続可能なPTA活動	①持続可能なPTA「組織」の在り方 ②持続可能なPTA活動の「運営」の在り方
第2分科会「家庭教育」	楽しみながらもためになる親の学びを進めるPTA活動	①子供の個性を伸ばす家庭環境の在り方 ②家庭を支援し、子供とともに保護者も成長するPTA活動の在り方
第3分科会「人権教育」	多様性(個性)を認識し、違いを認め合うことで自尊心を高めるPTA活動	①子供たちの多様性(個性)を尊重するPTA活動の在り方 ②保護者の多様性(個性)を尊重するPTA活動の在り方
第4分科会「教育環境」	家庭・学校・地域が協働して教育環境を整えるPTA活動	①協働して「学校」の教育環境を整えるPTA活動の在り方 ②協働して「地域」の教育環境を整えるPTA活動の在り方
第5分科会「広報・地域連携」	家庭・学校・地域・行政とのつながりを深めるPTA活動	①PTAの魅力や活動を伝え、地域等とつながる広報の在り方 ②地域等と連携・協働するPTA活動の在り方
第6分科会「今日的課題」	PTA改革を真正面から考える	①現在の社会状況におけるPTAの課題 ②様々な意見があることを理解し、お互いを尊重するPTAの在り方
記念講演	強く生きるためのヒント ～野々村友紀子が伝えたい人生で大事なこと～	野々村 友紀子氏 放送作家

各区PTA連絡会研修会開かれる

中央区 2月1日(土) 中央公民館にて

「睡眠・快眠について」 ～子どもの成長と学習への影響～ 社会医療法人芳和会くわみず病院 副院長 福原明先生

2月1日(土)、中央区PTA連絡会研修会が中央公民館で開催されました。社会医療法人芳和会くわみず病院副院長の福原明先生に講師としてご登壇いただき、80名超の方が参加されました。「睡眠・快眠について」子どもの成長と学習への影響」という題目で、濃密な2時間でした。その中でも私は、3つの話が非常に印象に残りました。



西区 2月1日(土) ANAクラウンプラザホテル 熊本ニースカイ

2月1日(土)、熊本ニースカイホテルにて西区PTA連絡会の交流会が行われました。1年に1回の行事ということもあり、大いに盛り上がりました。

会のはじめに、「金峰山神社岳神楽保存会」の皆様が演舞の披露をしていただきました。金峰山神社岳神楽とは熊本の伝統芸能の一つで、長い歴史があります。ステージで行われた素早い動きと迫力のある舞や鈴の音色の演舞は、参加者の心を奪いました。

北区 11月30日(土) 植木中央公園

「北区内子どもまつり2024」 区民、地域団体等と行政とが協働によるイベント「第7回北区子どもまつり」が11月30日(土)、植木中央公園にて開催されました。

このイベントは、子どもたちに様々な体験を提供し、地域全体で子どもたちの健全な成長を見守り、子どもを通して親睦と交流を図ることを目的としております。



東区 2月2日(日) 東町中学校 グラウンド 健康東小学校 マルシエ2025

2月2日(日)に東町中・健康東小のグラウンドで、東区マルシエ2025が開催され、600人を超える来場がありました。事前に募集したボランティアや子どもたちのお手伝いもあり、早朝からの準備もスムーズに進み、滞りなくマルシエがスタートしました。ステージでは、託東太鼓の演奏や健康東小の子どもたちによるコーラスステージ、おやじの会対抗ラムネ一気飲み大会、弾き語り、東町中職員によるバンド演奏、じんべいのライブがあり、どれも大いに盛り上がりま



南区 1月26日(日) 飽田中学校体育館

南区PTA連絡会主催の研修会が、1月26日(日)に飽田中学校体育館にて開催されました。開会のセレモニーでは、飽田中学校の吹奏楽部による演奏が行われました。

開催当日の朝は冷え込んではいませんが、開会では龍田西校区「スマイルバンド」が演奏し、一気に華々しい雰囲気となりました。

北区PTA連絡会では、飲み物やお菓子釣りゲーム、サイコロゲームなど、子どもたちが気軽に立ち寄れるブースを担当し、午後の早い時間帯に完売してしまつた。日頃から各単Pで活躍している会長市P担のパワーと北区P連の連携が、大いに発揮出来ました。

参加者数約1000人中、全体の48%が小学生以下・中学生という結果も出ています。ことから、北区P連ではこれからも子どもたちの未来につながる経験と体験の場を提供できるよう考えていきたいです。

（龍田西小学校PTA 会長 村上 弥生

きそば選手権が行われ、僅差で画図小おやじの会が優勝しました。他にも販売や体験ブース、キッチンカーなど多数の出店があり、賑わいを見せていました。

マルシエ終盤の抽選会では、会場中の人がステージの前に集まり、抽選結果に一喜一憂し、盛り上がりつつありました。

一日を通して、地域の方々と、子ども達の楽しそうな姿を見ることができました。このような行事を開催することで、もっとPTAへの関心を深めていけたらと思います。

（東町中学校PTA 副会長 一子石 豪

その後の講演会は、「SNSリテラシーについて」というテーマで金子勝氏にご講演いただきました。金子氏は、ウェブ解析士や上級SNSマネージャーの資格をお持ちで、デジタル庁のデジタル推進委員や熊本商工会議所のエキスパートバ

ンク専門家等を歴任され、多方面で活躍されています。 SNSリテラシーとは、ソーシャルネットワークキングシステム(SNS)を効果的かつ安全に利用するための知識やスキルを指します。今では、大人だけでなく子どもたちの多くもスマートフォンやSNSを活用して、日常的なコミュニケーションや情報発信を行っています。

熊本県PTA共済金給付の例のフローチャート。PTA共済金加入者(保護者・児童・生徒・教職員等)が、共済加入者として加入し、共済金受領の申請を行う。申請が承認されると、共済金受領の申請書がPTA共済金事務局に送られ、事務局が審査を行う。審査が完了すると、共済金受領の申請書が事務局から保護者に送られ、保護者が共済金を受領する。

熊本市PTA協議会 小・中学生総合保障制度のご案内。学校内外でのケガや、偶然な事故による法律上の損害賠償責任などを補償します。学校の休み時間に階段で転んでケガをした。自転車で走行中、他人にぶつかってしまいがけがをした。さらに、お子さまが病気になる時の補償や、お子さまの持ち物の補償、扶養者の方に万が一があった時の補償など、多くの補償でお子さまをお守りします。

し、PTAに限らず社会的に非常に重要なテーマとなつていいます。 SNSリテラシーの概要や重要性、知識・スキルの向上について、参加者の方々が真剣に耳を傾けていました。

寒い中ご講演いただいた金子先生、本当にありがとうございました。

お問い合わせ 熊本市PTA協議会 小・中学生総合保障制度事務局 TEL:0120-228-553



人と人との「関わり」

井戸中学校PTA会長の田尻です。井戸中学校で会長を4年、熊本市PTA協議会には3年関わらせていただきました。

井戸中学校の会長を受け継いだ時は「コロナ禍で、子どもたち・学校地域の皆さんとの関わりがとて難しい時期でした。保護者間の繋がりもほとんど希薄になり、これまでの日常を取り戻せるのか、とても不安でした。そのような中でしたが、市Pに関わることができたおかげで、他の単Pがどのように活動されているのかを聞き、学び、考えることができました。

今年度中学校を卒業する3年生は、小学校入学の直後に熊本地震が起き、その後はコロナ禍による休校等、行動の制限がありました。授業ではICT化が進み、タブレットの活用の幅はどんどん広がってきています。それ自体はとても素晴らしいことですが、以前のように地域行事等で子どもたちの活躍する姿を見ることが減ってきたように感じます。

地域行事の場は、子どもの成長や経験に繋がり、何より子どもたちの笑顔が見ることができると感じています。そのような大切な場を守るために、私たちPTAが地域というコミュニティと協力・協働することは、不可欠ではないでしょうか。

熊本市でも本年度から「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進」に取り組み、モデル事業がスタートしました。学校や家庭、地域が協力して子どもたちの教育環境をより良いものにし、地域社会とのつながりを深めることの重要性が認識されております。

今後は地域の「一員」として、子どもたちの笑顔を咲かせる活動に尽力していきたいと思っております。

熊本市PTA協議会 副会長 西区代表幹事 田尻 雄(井戸中学校)

西原小学校の紹介

東区「西原小学校」

西原小学校は、今年度で創立58年を迎えます。地域に密着した教育を大切にしており、子どもたちがのびのびと成長できる環境を作っています。

校訓「誠実 努力、友愛」を掲げ、創造性豊かな人間性を育むための学校教育を実施しています。

西原校区の特徴としては、地域との連携を大切に、様々なイベントや活動を子どもたちが体験しています。今年も1月11日(土)には、毎年恒例のどんどやが開催されました。

PTA主導のもと、前日の「竹切り」では、保護者・地域のボランティアの方々と6年生全員が協力し、切った竹を学校



いよいよマンモス校に

中央区「出水南中学校」

出水南中学校は、熊本市中央区にある創立42年の学校です。

校区は市民の憩いの場所「江津湖」に接し、豊かな緑の農地が広く残っています。

また、熊本の交通の動脈ともいえる「国道57号線(通称東バイパス)」が東西に、「浜線(バイパス)」が南北に走っています。自然の良さを残しながら発展している地域です。

生徒数は804名(R6・5現在)で毎年増え続け、来年度の新一年生はついに300人を超えるとも言われており、いよいよマンモス校(ひと学年300人以上)となりつつあります。



その様な背景の中、

漱石俳句

ウオークラリー

西区「芳野小学校」

芳野小学校は、地域学習「芳野学」で「ふるさと」「芳野」を誇りに思い、夢に向かって自律する子ども」の育成を目指しています。その柱として学校環境緑化推進活動と文化芸術活動を進めており、PTAも支援しています。

学校環境緑化推進活動は、金峰山の豊かな環境を生かした活動です。環境保全活動や地域貢献活動にも取り組んでいます。

文化芸術活動は漱石俳句活動です。明治時代に本校区を夏目漱石が旅をし、俳句をしたためたことが由来です。年8回の漱石俳句週間等に子どもたちは作句し、年度末には冊子を発行しています。

それらは積年の成果が認められています。昨年度、緑化活動が「令和5年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受けました。本年度には、漱石俳句活動が「第55回博報賞」で功労賞を授かりました。

令和7年度には創立150周年を迎えます。この節目を機とし、本校がさらに発展すればと思います。

(芳野小学校PTA 副会長 久保 由紀子)



隈庄小学校の紹介

南区「隈庄小学校」

隈庄小学校は明治7年(1874年)に公立学校隈庄北校として開校し、本年度150周年を迎えました。この歴史的節目に際し、本校のPTA役員と歴代OB・OGが子どもたちの記憶に残るイベントがしたい!!と実行委員会を立ち上げ、2年半に渡り様々な企画を考えました。

まず、プレイベントとして熱気球乗船と町内周遊バス乗車体験を11月9日(土)に開催しました。早朝のグラウンドに気球が上がる光景は圧巻で、実行委員一同熱いものが込み上げました。わずかな時間の乗船でしたが、子どもたちのキラキラした笑顔が印象的でした。また、町内周遊口



また、町内周遊口

祝 田原小学校

創立150周年

北区「田原小学校」

田原小学校は熊本市の最北西部に位置し、山鹿市玉東町と境界を接しています。明治8年に開校し、今年創立150周年を迎えます。校区内には、国内で最後の内戦となった西南戦争(西南の役)において、最大の激戦地であったとされる田原坂があり、周辺には当時から変わらずに残されている史跡も数多く存在します。現在、坂の頂上には田原坂公園があり、



資料館での展示や当時の写真を元に再現した建屋などで、その歴史を伝えていきます。また、自然も豊かで、美しく咲く桜やツツジが見られることでも有名です。



田原坂公園は2013年3月に西南戦争遺跡の一部として、国の史跡にも指定されました。本校の5年生は、毎年3月に行われる西南戦争戦没者追悼式に向けて、総合的な学習の時間に、薩摩神刀自念流聖刀館の先生よりご指導を受け、西南戦争で亡くなった方々への思いに心を寄せながら、戦没者を追悼する剣舞の練習を行っています。

(田原小学校PTA 副会長 清田 光則)

編集後記

日頃から熊本市PTA協議会の活動へご理解、ご協力いただきありがとうございます。

また、今年度の市P会報の編集、発刊にご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。

今年度は、各単Pでも学校行事や周年事業をはじめ、地域行事も行われ、盛り上がりを見せたように感じます。

来年度も会員の皆様の参考にしていただける広報誌として愛読いただければ幸いです。ありがとうございました。

- 広報委員長 中金 裕二(託麻東小)
142号編集委員(順不同/敬称略)
長野 圭介(白川中)
後藤 黎射(託麻東小)
二子石 豪(東町中)
吉武 諒(西原小)
内田 裕子(芳野中)
高崎 貴之(河内中)
久保由紀子(芳野小)
楠本 良一(豊田小)
杉本 隆宏(隈庄小)
宮本 崇大(三削小)
清田 光則(田原小)
三嶋 恵介(山本小)